

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772800526
法人名	医療法人 全人会
事業所名	グループホーム ソシアス此花春日出
訪問調査日	平成 21 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 18 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772800526
法人名	医療法人 全人会
事業所名	グループホーム ソシアス此花春日出
所在地	大阪市此花区春日出北2丁目14番2号 (電話) 06-6467-1771

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(平成21年8月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	16 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	37,800 円	
敷金	有()円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(5年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,470 円	

(4)利用者の概要(8月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	谷本大島橋診療所 大阪暁明館病院 谷本医院 壇上歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪神・千鳥橋駅下車徒歩10分の春日出商店街に隣接している市街型のホームである。ほなみ医療福祉グループに属する医療法人は他に2箇所のグループホームを運営している。日常の介護は各ユニットのリーダーを中心に要介護度やADLの平均的状态に合わせたユニットごとの運営が行われている。商店街のアーケードは雨の日でも散歩が出来、買物をする人々とのふれあいは利用者の楽しみともなっている。1年を通して地域の季節の行事等に参加しながら、地域との係わりを維持していく等、環境や利便性のある市街型ホームの特徴を活かした取組が行われている。職員は利用者の体調の変化にすばやく対応すると共に、毎日が笑いのある生き生きとした暮らしが出来る支援にチームワークで取組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着の方向性を理念の中に表現するという前回からの課題は、職員が色々な案や意見を出して、現在検討中である。課題の取り組み状況がわかるように、また進み具合が全職員で確認できるように、書式によるフォローの仕組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットごとに別々に行われているので、ユニットごとの改善課題や実施できていることがより明確になり、自己評価本来も狙い通りになっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の代表として様々な立場からのメンバーが参加できている。民生委員長、校区福祉の代表者、小地域ネットワーク推進委員、此花公園愛護会幹事等の人が参加して、事業所の活動報告や地域交流について意見交換を行っている。家族の代表も参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族の訪問は多く、電話等でも頻繁に連絡を取り合っている。来訪時には管理者やユニットリーダーが対応し暮らしぶりを詳しく報告している。行事にも家族の参加を呼びかけ協力して利用者を支援していく取組みに力を入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大きな商店街(春日出商店街)が近く、商店街のイベントや夏祭り、此花公園の行事などを通して地域と事業所および利用者の交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を事業所の理念としているが、地域密着を目指す方向を理念に表現するために、職員が意見を出し合って現在まとめている段階である。職員から多くの意見が出ている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在掲げている法人の理念を、毎日一条文ずつ順に取りあげて、職員で唱和をして理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時には近隣に親しく挨拶をするように心がけ、夏祭りや商店街の行事、生涯学習への参加など地域との交流に努めている。幼稚園の園児達の訪問を受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットのリーダーが中心となり職員が意見を出して自己評価に取り組んだが、管理者の交代等で改善課題の引継ぎと成果の確認の仕組みづくりに不十分な点がある。	○	今回の自己評価を中心にして家族アンケートや外部評価の結果を参考にしながら、取組む課題を明確にすると同時に「改善計画シート」等に書式化して成果の確認が出来るような仕組みづくりが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表として、校区福祉委員や民生委員および社協からの代表者、公園愛護会幹事等が出席して2ヶ月に1回の頻度で開催できている。会議では事業所の活動報告や地域との交流について意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当窓口から介護保険関係の情報提供を受けて事業所の運営の参考にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には主として管理者とユニットのリーダーが対応して、健康状態や暮らしぶりを伝えている。バイタルや食事量の個別情報を希望する家族に届けている。またソシアス便りを年4回発行して、行事の予定や結果を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議に参加してもらえる家族から、事業所に対する意見や要望を聞くようになっている。苦情の際には苦情報告シートを作って職員への徹底を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに勤務職員が固定したシフトを組んでいる。2階ユニットは若干職員異動はあったが、利用者へ不安感を与えないように管理者、リーダーが中心になって対応してきた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に加えて、法人内の事例発表会を年間2回開催するなど、働きやすい職場作りを目指した取組を法人全体で行っている。また年長者と若手職員のお互いの研鑽もスキル向上に寄与しているように思われる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	此花区のグループホームは当事業所だけでなく、地域同業者交流は出来ないが、法人内での情報交換は行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の前段階では、本人と家族と面談して新しい暮らしについての不安を最小限にするように心がけている。事業所を見学して職員と話を交わす事や、体験利用も方法として取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族にも協力を依頼しながら、本人と職員が新しい暮らしの中でお互いの信頼関係が早く出来るように、一緒に笑い、苦しみながら支えあう暮らしを目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中を読書で過ごす人、書道教室に通う人など本人の好きな過ごし方が出来るように職員同士が連携して支援している。この点の対応については家族も評価している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人からここでの暮らしに関する要望を聞き、主治医や関係者から意見を聞いた後に、職員で話し合って介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、利用者ごとの状態の変化を職員が日常の観察をベースに話し合っている。症状やADLの変化に応じた介護計画書の見直しがされている。	○	日常の経過記録は利用者ごとの状態について職員の気づきが記録されている。認知症の人は行動や言動で何らかのサインとヒントを出しているから、経過記録の表現内容について「記録のための記録」にならないよう、カンファレンスに有効な情報になるようなプロとしての観察力の追求が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状態や環境に配慮をして、通院の介助や文化教室(書道教室通い)の外出支援等を積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で以前からのかかりつけ医による受診についても支援している。契約医療機関による訪問診療や訪問看護により医療面の対応が家族に安心感を与えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り指針」及び「重度化した場合における対応に係わる指針」を文書化して家族と話し合っている。かかりつけ医の指導を受けながら家族と協力して対応する方針を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との会話においては、ことばを選びながらの声かけ、個人記録においては個人情報の扱いについてプライバシーに配慮した行動が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今まで暮らしてきた利用者の生活環境や暮らし方を最優先した個別支援が徹底されている。食事の場所や日中において過ごす場所にも気を配っている様子が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を、介護の一環として利用者のADLや能力に応じて参加を促している。調査当日は誕生日会の日で、好物のチラシ寿司の献立であり、商店街での食材の買物から準備していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望をする日には入浴出来るように対応している。利用者の清潔保持を基本にして、ゆっくりと落ち着いた入浴が出来るように気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書や書道など入所以前からの趣味や特技を新しい暮らしの中でも引続き行えるように、一人ひとりの生き甲斐や楽しみ事を大切に職員が支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の体調と相談しながら、できるだけ外の空気に触れるように支援している。毎日決まった時間に散歩する人もいる。商店街はアーケードがあり、買物も外出の一環として利用している。此花公園での春の花見など、季節の外出行事も企画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は安全を優先して施錠している。食堂、居間が広く建物内の閉塞感を感じない。外出意向を示す利用者には、それとなく職員が付き添って気持ちが落ち着くように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行って誘導の手順を身につけるように職員に徹底している。運営推進会議でも防災対策について意見の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量および水分補給の状態について、利用者個々のチェックを行っている。食事の盛りつけや水分の摂り方について個々の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両サイドに居室を設けて、台所から調理等しながら利用者の見守りが出来るレイアウトで安心できる。ユニットごとに夫々が家庭的な雰囲気作りに特色を出している。採光も良く、季節を感じさせる飾り付けに工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉には本人の最近撮った写真や飾りでわかり易い工夫がしてある。居室には家族と相談しながら、馴染みの調度品等が置かれて、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮がされている。本人の写真集は家族から喜ばれている。		